

外国との交流授業 ～宮古島市 実践報告～



宮古島市教育委員会

外国とつないだ国際交流促進のための遠隔交流授業

宮古島市立下地中学校 ↔ 台中市立漢口國民中學

20年来の交流事業

・学校から10名のホームステイ(夏休み)

【課題】

せっきくの交流事業を、全校生徒の学びに繋げることができていない。



漢口國民中學
1年 35人
英語科教諭 1名
サポート教諭 1名



下地中学校
3年 34人
英語科教諭 1名
ICT支援員 2名

【取組の背景】

交流事業(ホームステイ)に参加する生徒だけの体験学習を、全校生徒が身近に感じる国際交流活動に深化させたい。

◆ 取組全体のねらい

- ① 台湾国際交流の促進を図る。
- ② 生徒の国際理解と異文化への興味関心を高める。



遠隔教育実践の内容

- ① ホームステイ事業を充実させるための遠隔交流
- ② 通常授業での遠隔交流



効果検証～生徒アンケート～

・通常授業に国際交流活動を取り入れることで、生徒の国際理解や異文化への興味関心の度合いに変化が見られるか、実践前と実践後の状態を比較し効果測定を行う。

外国とつないだ国際交流促進のための遠隔交流授業

◆ 実践例1: パートナーについて知ろう！

ホームステイのペアとなる生徒同士で自己紹介をし合い、現地交流の参加教員同士で、顔合わせと挨拶を行った。



←遠隔での事前交流の様子↓



←実際に現地で対面した時の様子

外国とつないだ国際交流促進のための遠隔交流授業

◆ 実践例2:「英語」日本文化を分かりやすく伝えよう!

教室－教室で接続

今回は接続先に日本語指導教諭が配置されていないことから、英語科で交流活動を取り入れた授業を実践した。

下地中学校の生徒から日本文化についての発表を行い、それについて質疑応答を行った。



外国とつないだ国際交流促進のための遠隔交流授業

◆海外との交流についてのノウハウ

・外国との交流はどうしても時差の影響がある。
→空き時間等に容易に連絡を取るための手段(メール、SNS等)を
確立しておく。授業者同士の繋がりが重要。

・外国との接続の際に必要なネットワーク環境
→Web会議システムを活用することで、双方が
インターネットに繋がる環境があれば、
特別な環境やネットワーク設定を行う必要なし。

・海外と繋ぐことの効果
→「海外の生徒」と共に学習することで、
国際理解の深まりや異文化への興味関心の高まり
が見られ、世界に開かれた教育の充実に繋がる。



外国とつないだ国際交流促進のための遠隔交流授業

◆ 今後の展開について

- ・交流促進のため、遠隔で行えることを積極的に行う。
例) 交流計画の調整、ペア同士の自己紹介など
- ・交流体験を学校内外に知らせるために、ライブ中継などを利用する。
例) 歓迎式典、お別れ会、姉妹校の様子などを伝える。
- ・国際理解に繋がる遠隔交流授業を実施していく。
「伝えたい・知りたい」を意識した授業。
学校紹介、日本の食文化、伝統文化、行事、歌、趣味など互いに交流できる素材を扱う。
- ・接続先授業者との交流を培うことも大切に